

～子どもの姿をもとに「これからの授業」
について一緒に語り合いましょう！～

POINT

全ての教科等で「深い学び」が子どもの姿として
表れる授業を実現します！

- 粘り強く探究し続ける姿を提案します。
- 教科等の見方・考え方を働かせ、対話を通して課題を解決していく子どもたちの姿をご覧くださいます。

粘り強くともに学ぶ子どもの育成（1年次）

～各教科等の本質に迫る「主体的・対話的で深い学びの姿」とは～

期 日 平成31年2月8日（金）

8:15	9:00	9:45	10:00	10:45	11:00	12:25	13:30	15:50
受付	公開授業Ⅰ	移動	公開授業Ⅱ	移動	教科等 分科会	昼食	全体会	閉会

会 場 熊本大学教育学部附属小学校

内 容 各教科等の授業公開・分科会
講演 「今求められる学力と授業づくりの方向性」
—「深い学び」をどう捉えるか—

講 師



京都大学 准教授 石井 英真 先生

京都大学大学院教育学研究科准教授 博士（教育学）
神戸松蔭女子学院大学人間科学部准教授などを経て現職。

著書 『中教審「答申」を読み解く』（日本標準）
『今求められる学力と学びとは —コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影—』（日本標準）
『小学校発 アクティブ・ラーニングを超える授業 —質の高い学びのヴィジョン「教科する」授業—』（日本標準）など

研究発表会の申し込み締め切りは **2月1日（金）** です。

ホームページ <https://elem.educ.kumamoto-u.ac.jp/> 熊大附属小 検索

熊本大学教育学部附属小学校 研究だより VOL.51

発行日 平成31年1月7日

編集・発行 熊本大学教育学部附属小学校 〒860-0081 熊本市中央区京町本丁5番12号 TEL 096 (356) 2492 FAX 096 (356) 2499

WEB
申し込みが
オススメ！



©2010熊本県くまモン

附属小 研究だより

平成30～31年度 文部科学省委託

「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び
の視点からの学習・指導方法の改善の推進」研究校



粘り強くともに学ぶ子どもの育成（1年次）

～各教科等の本質に迫る「主体的・対話的で深い学びの姿」とは～

詳しくは裏面をご覧ください

研究発表会締め切り間近！！

ごあいさつ

新しい年を迎え、いよいよ本校の研究発表会が近づいてまいりました。現在、各学校では新学習指導要領移行措置をふまえ、次年度以降の教育課程編成が進められているものと察します。

本校は、本年度より文部科学省から「主体的・対話的で深い学び推進事業委託校」の委嘱を受け研究を進めてまいりました。研究の諸についたばかりではありますが、各教科等での実践を通して追究してまいりました「主体的・対話的で深く学ぶ子どもの姿」をぜひご覧いただきたいと思います。

平成31年2月8日（金）開催の研究発表会では、上記の研究の成果を提案いたしますとともに、新たに「学校づくり部会」の開催や、新学習指導要領に位置づけられた「プログラミング学習」の授業も公開いたします。

県内外より多くの皆様のご参加をいただき、本校の研究について忌憚のないご意見を賜われれば幸いです。当日、皆様にお会いできるのを楽しみにお待ちしております。

熊本大学教育学部附属小学校 校長 島田 秀昭

公開授業Ⅰ

9:00 ～ 9:45

国語科 第4学年「ごんぎつね」
ごんの兵十へ向けた心の声を言葉にしてい
くことで、行動と気持ちの変化を捉える。



『「ごんぎつね」はごんの兵十へのつぐないの話だよ。』授業後の感想にある言葉です。本実践では、兵十に向けたごんの心の声を書いていくことで、兵十と心を通わせようとするごんの思いに迫る授業を提案します。
(蔵田 和明)

算数科 第1学年「どちらがひろいかな」
子ども自ら比べ方を見いだす授業づくり



測定領域では、各単元で共通する比較や測定の方法を学び、子どもたちがその学び方を自覚し、次の学びに生かすことが求められます。本時では、長さで学んだ学び方を生かし、広さの比べ方を見いだす姿を提案します。
(篠田 啓子)

音楽科 第2学年「あらわそう！場面の様子」
楽器の音を重ねて場面の様子を表す



自分の思いと音楽表現を結び付けることに難しさを感じている子どもたち。そこで、表したい場面の様子をイメージしながら、音の重なりなどの視点で、自らの思いに合った表現を工夫していく授業を提案します。
(蒲地 悦子)

家庭科 第5学年「めざせ！かしこい消費者」
生活と結びつけて考える授業を提案します



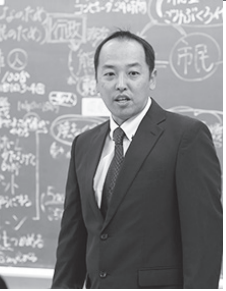
「買い物の仕組みや消費者の役割」が新学習指導要領で新設されました。消費生活についての自分の行動を振り返り、買い物仕組みや新しい売買方法を理解することを通して、かしこい消費者の姿を見いだしていきます。
(大廣 紘子)

国語科 第6学年「海の命」
太一と私の「対談記」で、考えを形成する力をつける



新学習指導要領において、全ての領域で重視された指導事項「考えの形成」。本実践では、小学校最後の物語単元で「考えを形成する力」を身に付けていく子どもの姿とその手立てを、具体的な授業を通してご提案します。
(中尾 聡志)

社会科 第4学年「自然災害から人々を守る」
今、自分にできる社会参画とは…？



新学習指導要領で示された「構想」する活動。子どもたちが自然災害を自分事として捉え、「附属小子ども防災士」として「今、自分たちにできること」を考えたり選択・判断したりしていく姿をご覧ください。
(定松 良彰)

理科 第4学年「探れ！水のすがた」
質的・実体的な見方を働かせ、水の性質を追究します



空気、水、金属、それぞれの物質ごとに体積変化や温まり方を追究してきた子どもたち。これまでの学びを関連付けながら水の性質を捉え、温度によってその状態が変化することを自ら見出していく授業を提案します。
(牛嶋 克宏)

図画工作科 第2学年「並べて 積んで 広がる世界」
表現活動における「深い学び」を提案します！



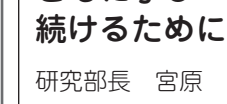
今、図画工作科で求められるのは、発想や構想の能力を育成する指導の充実です。そこで、ウッドブロックを使って造形していく中で、発想や構想を繰り返し、形の面白さを感じ取る授業を提案します。
(毎床 栄一郎)

外国語科 第5学年 “This is my great friend!”
子どもが見通しをもって学ぶ「友達紹介プロジェクト」



“Can you ～?” の英語表現を覚えて尋ねるだけでは、コミュニケーションを図る必要感はありません。友達の新たな一面をスクープしようという目的意識から、既習表現を駆使してやりとりしていく授業を提案します。
(高田 実里)

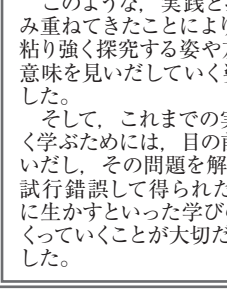
粘り強く
ともに学び
続けるために



研究部長 宮原 大輔

「授業とは、教師と子どもが一緒につくっていくものである」この言葉を、今一度見つめ直す時がきています。子どもの思いに寄り添いながら授業をつくっていくことで、子ども自ら学ぶ意義を見だし、本気になって学びに向かうと考えます。そこで、私たちは、子どもを主体とした授業づくりに取り組んできました。本校での授業研究会の中では、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」が、授業のどの場で生じていたのか、また、それぞれの学びを生み出すための教師の手立ては適切だったかということ、子どもの姿を基にしながら議論してきました。このような、実践と授業研究会での省察を積み重ねてきたことにより、子どもが課題について粘り強く探究する姿や友達とともに新たな発見や意味を見いだしていく姿が見られるようになりました。そして、これまでの実践から、子どもが粘り強く学ぶためには、目の前の事象に対して問題を見だし、その問題を解決するための方法を考え、試行錯誤して得られた結果を振り返り、また次に生かすといった学びの過程を子どもとともににつくっていくことが大切だということが分かってきました。

社会科 第5学年「国土の自然と共に生きる」
「深い学び」に迫る単元、そして授業とは？



子どもが社会的事象に主体的に関わりながら「深い学び」に向かうためには何が必要でしょうか。今回は人々の自然環境への取り組みを追究する中で、子どもが事象を多角的・多面的に捉えていく授業を提案します。
(平川 純哉)

理科 第6学年「解き明かそう！てこのひみつ」
てこの新たなよさに迫る姿をご覧ください



子どもたちは、小さな力で大きなものを動かせることが、てこの働きのよさと捉えています。量的・関係的な見方を働かせる場面を設けることで、てこの新たなよさを子ども自ら見出していく授業を提案します。
(近藤 祐樹)

体育科 第3学年「ダブルアタックゲーム」
ゲームで使える「アタック」を身につける授業とは



よいアタックを身に付けてもゲームの中で使えるとは限りません。それはゲームの中の状況は常に変わり続けるからです。本実践では、ゲームの中で生かせるアタックを身に付けていく子どもの姿を提案します。
(磨田 慎太郎)

算数科 第5学年「プログラミングで図形を描こう！」
算数科におけるプログラミングをお見せします



2年後にはプログラミングを教科等で学ぶことになります。算数科ではどのような授業でプログラミングの思考を育成すべきなのでしょう。 「図形の角」の単元に位置付けた実践を提案します。
(大林 将呉・松山 明道)

また、相手の考えに対して、ただ受け入れるだけではなく、本当にそうなのかと批判的に考えることが大切であることも分かってきました。そのためには、子どもの考えを見取りながら、互いの考えの違いを検討する場を設定していく必要があります。

このように、問題を追究する中で学ばおもしろさを実感し、友達との学び合いで自分の考えがより深まったという経験をした子どもたちは、自ら学びに向かっていくのです。

本研究発表会では、ここで紹介している24の授業を公開いたします。子どもが粘り強く問題解決に向かい、友達との対話を通して新たな発見や意味を見いだしていく「深い学び」の姿を多くの皆様にご参観いただき、ご指導いただければ幸いです。

社会科 第5学年「国土の自然と共に生きる」
「深い学び」に迫る単元、そして授業とは？



子どもが社会的事象に主体的に関わりながら「深い学び」に向かうためには何が必要でしょうか。今回は人々の自然環境への取り組みを追究する中で、子どもが事象を多角的・多面的に捉えていく授業を提案します。
(平川 純哉)

理科 第5学年「探れ！とけているものは何だろう？」
自分なりの方法で「溶け方」の謎に挑む姿を提案します



「水溶液に溶けているものが取り出せない」という『壁』に出合わせ、物質の性質をグループごとに解き明かしていきます。性質の違いによる取り出し方を考える中で質的・実体的な見方を働かせていく授業を提案します。
(松山 明道)

体育科 第6学年「ダイナミックボックス」
ダイナミックパフォーマンスからダイナミックボックスへ



表現運動で身に付けた力を跳び箱運動に生かすにはどうすればよいでしょう？本実践では、ダイナミックというキーワードでつなぎ、身に付けた力を他領域にも生かす授業を提案します。
(平嶋 秀盛)

総合的な学習の時間 第3学年「世界に誇る地下水都市・熊本」
本当のプロジェクト学習を提案します！



熊本市の水道水を飲まない原因が誤概念だったことに気付いた子どもたち。プロジェクトありきの学習ではなく、「それならやってみたい」と思った後の方が、より効果的なプロジェクトになることを本実践で主張していきます。
(豊田 誠一郎)

国語科 第2学年「スーホの白い馬」
“音”を想像し、様子や気持ちを具体的に思い描く



もしも物語の世界に入ったなら、どんな音が聞こえてくるでしょう。本実践では「はねおきる」「ふりはなす」等の語彙に着目し、場面の“音”を想像する活動を通して、主体的・対話的に物語を読み解く授業を提案します。
(溝上 剛道)

算数科 第3学年「三角形と角」
数学的な見方・考え方を働かせる授業を提案



円の性質を用いて二等辺三角形や正三角形を作ることは、子どもにとって案外難しいものです。そこで本時では、複数の円の中心や交点から様々な三角形を作図する中で見方・考え方を働かせる授業を提案します。
(高野 倫浩)

生活科 第1学年「ふしぎなきのみ【ムクロジ】であそぼう！」
「遊び」における「深い学び」とは？



学校で拾った「ムクロジ」の実。その木の实を使って遊び、身近な人に関わっていく中で、遊びを創り出す面白さに気付いていきます。活動の中で気付きの質が高まり、「深い学び」を生み出す子どもの姿を提案します。
(坂口 静庵)

外国語活動 第4学年 “This is my future day!”
絵本を作って「ぼく・わたしの未来の1日」を表現しよう



教師が絵本を繰り返し読み聞かせるだけでは、子どもが表現に慣れ親しむまでには至りません。聞き慣れた英語表現を用いて、相手や目的を意識した絵本を作る中で、子どもが主体的に表現していく授業を提案します。
(高田 実里)

保健・健康教育 第4学年「育ちゆく体とわたし」
学びを行動変容につなげる授業を提案します



10年後の自分の姿をイメージし、未来予想図を作成した子どもたち。行動と発育・発達とのつながりに目を向けながら、自分に必要な行動を考え、よりよく発育・発達するための方法を探っていきます。
(角居 禎子・牛嶋 克宏)

公開授業Ⅱ

10:00 ～ 10:45

算数科 第6学年「変わり方について考えよう」
子どもが夢中になる数学的活動を提案します



自ら見いだしたきまりを「本当にそうなのか」と立ち止まった時に批判的思考が働きます。目の前の事象の変わり方に着目して発見したきまりについて、6年間の学びを基に粘り強く探究していく授業を提案します。
(大林 将呉)

音楽科 第6学年「つくろう！オリジナルBGM」
循環コードの音楽づくりを通して、テーマに沿った音楽表現を考える



タブレット端末を用いて、家庭での勉強や掃除等、生活場面で使う循環コードのよさを生かしたオリジナルの曲づくりに取り組みます。使う場面に合った音楽表現を協働して生み出していく授業の具体を提案します。
(中島 千晴)

道徳科 第1学年「すてきなじふんとであうために」
「深い学び」を生み出す単元型学習



1年生にとって、自分のよさに気付くことは難しいことです。そこで「個性の伸長」を中心内容目として単元を組み、価値を多面的・多角的に考えることで、自分のよさを見いだしていく「深い学び」の姿を提案します。
(宮原 大輔)

学校づくり部会「カリキュラム・マネジメントを活かした魅力ある学校づくり」



カリキュラム・マネジメントの視点のもとに、学校教育目標の実現に向けた組織的な取組等について、それぞれの立場でどう取り組み、魅力ある学校づくりにどうつなげていけばよいのか、皆様と協議したいと考えております。
(猿渡 徳幸)